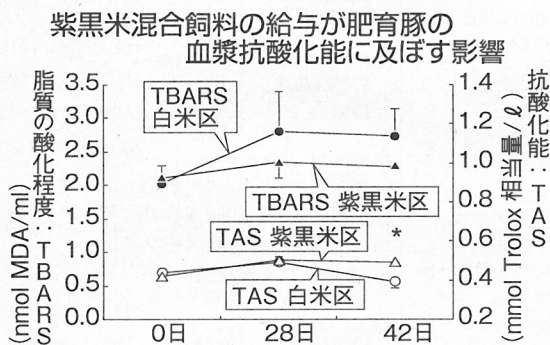


# 農業技術

## プリズム

飼料自給率向上の一環として、米の飼料としての利用が進んでいます。米の中でも紫黒米は、白米と同様に高い栄養



## 肥育豚への紫黒米給与 抗酸化能を高く維持 暑熱ストレスを軽減

価を有する上に、アントシアニンなどの抗酸化成分を豊富に含有することから、機能性飼料としての効果が期待されます。近年、暑熱による肥育豚の生産性低下には酸化ストレスの関与が

指摘されており、紫黒米を給与することで豚の抗酸化能を高めることができ、暑熱ストレスの軽減に有効と考えられます。そこで、紫黒米の給与が暑熱期の肥育豚に及ぼす影響について検討しました。

輸入トウモロコシの代替として、飼料中に30%の白米または紫黒米を配合した、2種類の飼料を試験に用いました。両者の抗酸化活性を比較したところ、紫黒米を配合した飼料は白米の約2倍となる高い活性を有していました。また、それぞれを暑熱期の肥育豚に6週間給与した結果、肥育成績や枝肉成績に大きな差はない一方で、白米の給与（対照区）と比較すると、紫黒米の給与により試験期間中の血漿（けっしょう）中の抗酸化能（TAS）は高く維持され、脂質の酸化程度（TBARS）は低い値で推移しました（図）。

以上の結果から、紫黒米の給与は暑熱期における肥育豚の酸化ストレス軽減に効果を示すことが明らかとなりました。今後は、抗酸化活性を有する地域未利用資源の飼料活用なども視野に入れながら、暑熱期の生産性改善に向けた技術開発に取り組んでいきます。

（県農林技術開発センター・本多昭幸）